

東日本支部「首都圏外郭放水路」見学会 開催報告

東日本支部では、世界最大級の地下放水路の「首都圏外郭放水路」見学会とランチ会を兼ねた意見交換会を開催しました。

開催概要

開催日 2025年12月2日(火)
場 所 意見交換会、現場見学会 埼玉県春日部市
参加人数 14名(正会員:12名 その他社会人:1名 正会員の家族:1名)
内容 【意見交換会】

11:30～13:00

- ・テーマ「職場でのコミュニケーションの工夫」
「自己研鑽・スキルアップのために取り組んでいる事」

【「首都圏外郭放水路」見学会】

13:30～15:30

- ・龍Q館 見学・概要説明
- ・第1立坑見学
- ・調圧水槽見学

当日の状況

【意見交換会】

東武アーバンパークライン・藤の牛島駅前にある海鮮割烹「魚元」にて、ランチを兼ねた意見交換会を実施しました。

自己紹介の時間には、日頃の業務の話から「土木技術者女性の会」との出会いまで、さまざまな話題が飛び交い、終始和やかな雰囲気で行われました。

メインテーマの「職場でのコミュニケーションの工夫」については、上司・部下・管理職など立場の違いから多様な意見が寄せられ、活発なディスカッションに。

続いて取り上げた「自己研鑽・スキルアップのために取り組んでいること」では、隙間時間を使った資格取得の体験談や、退職後を見据えたキャリアプランなど、こちらも幅広い視点で意見交換が行われました。



意見交換会の様子

【「首都圏外郭放水路」見学会】

地底探検ミュージアム「龍Q館」1階エントランスに集合したあと、2階の展示室へ移動し、中川・綾瀬川流域の地形や首都圏外郭放水路がつけられた背景、そして施設全体の仕組みについて、模型や足元の大型マップを使いながら丁寧に説明していただきました。首都圏外郭放水路は、一部区間を先に完成させて供用を開始しつつ、残りの区間の工事を進める方式で整備され、2006年に全区間が完成して全川での運用が始まったそうです。供用開始からこれまでの稼働回数は約150回で、ポンプまでフル稼働する規模になるのは年に2~3回ほどとのことでした。なお、今回のような見学会のほか、テレビ番組などの撮影場所としても多く利用されているそうです。



1階エントランス



2階展示室

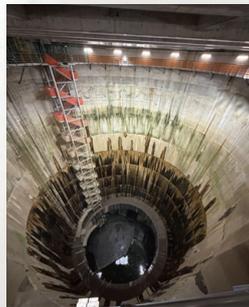


テレビ番組の撮影でもよく使われているスポット

説明のあとは、まず「第1立坑」へ向かい、レール付きの専用安全帯を装着して見学しました。内径31.6m、深さ71mという巨大な立坑を、上部からのぞき込むように見学する迫力ある体験となりました。



レール付きの専用安全帯



自由の女神像もすっぽり入る
巨大立坑



調圧水槽がチラリ

その後は「調圧水槽」へ移動しました。地下トンネルから流れ込む水の勢いを調整するための施設で、長さ177m・幅78mという広大な空間の中に、59本の巨大なコンクリート柱が並んでいます。

この光景がまるで神殿のように見えることから、「地下神殿」と呼ばれているそうです。調圧水槽の貯水量はおよそ67万立方メートルで、池袋のサンシャイン60ビルの体積とほぼ同じくらいの規模とのこと。数字で聞くより、実際に立ってみるとその大きさをより実感しました。



調圧水槽の説明を聞く参加者



「地下神殿」



参加者で記念撮影